

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-275245

(43) 公開日 平成11年(1999)10月8日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	F I
H 0 4 M 11/00	3 0 2	H 0 4 M 11/00 3 0 2
G 0 6 F 1/26		G 0 6 F 3/00 Q
3/00		H 0 2 J 7/00 3 0 2 C
H 0 2 J 7/00	3 0 2	H 0 4 M 1/00 N
H 0 4 Q 7/32		1/02 C
審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 3 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号 特願平10-74037

(22) 出願日 平成10年(1998)3月23日

(71) 出願人 000006633

京セラ株式会社

京都府京都市伏見区竹田烏羽殿町 6 番地

(72) 発明者 山下 浩正

神奈川県横浜市都筑区加賀原 2 丁目 1 番 1

号 京セラ株式会社横浜事業所内

(72) 発明者 渡邊 晃子

神奈川県横浜市都筑区加賀原 2 丁目 1 番 1

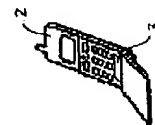
号 京セラ株式会社横浜事業所内

(54) 【発明の名称】 電池内蔵型携帯無線端末

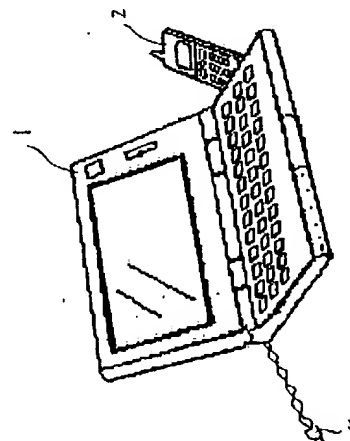
(57) 【要約】

【課題】 携帯無線端末の内蔵電池の寿命を延ばす。

【解決手段】 本発明はパーソナルコンピュータに装着された電池内蔵型携帯無線端末がパーソナルコンピュータからの AC 電源または内蔵電池によって駆動するかどうかを選択できるし、さらに同時に内蔵電池をパーソナルコンピュータからの AC 電源によって充電することができるので、内蔵電池の寿命を延ばすことができる。



挿入



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 パーソナルコンピュータに装着するとパーソナルコンピュータとの間でデータ転送が行われる電池内蔵型携帯無線端末において、前記電池内蔵型無線端末がパーソナルコンピュータに装着されデータ通信が行われるときにはユーザからの指令によって前記電池内蔵型無線端末が前記パーソナルコンピュータに備えられた電源によって駆動されるかまたは内蔵電池によって駆動されるかを選択できることを特徴とする電池内蔵型携帯無線端末。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、電池内蔵型携帯無線端末がパーソナルコンピュータに装着されているときユーザからの指令によってパーソナルコンピュータの電源によって駆動されるか内蔵型電池によって駆動されるかを選択することができる電池内蔵型携帯無線端末に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来の電池内蔵型携帯無線端末においては、(1) パーソナルコンピュータに接続されているときにはパーソナルコンピュータからの電源供給を受け、接続されていないときには内蔵電池によって駆動される。(2) パーソナルコンピュータに接続されているときでもパーソナルコンピュータに接続する前の設定によりパーソナルコンピュータから電源供給するか内蔵電池を用いるかを選択できる。(3) パーソナルコンピュータに接続されているときでも内蔵電池が使用されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、このような従来の電池内蔵型携帯無線端末であっては、上述の(1)のときにはパーソナルコンピュータに接続された後ではユーザは設定を変更することができなかった。上述の(2)のときにはパーソナルコンピュータは必ずしもAC駆動とは限らないためにパーソナルコンピュータ側の電池消耗が早くなる。また、上述の(3)のときにはパーソナルコンピュータの種類によっては電源を供給できないものがある。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明はこれらの課題を解決するためのものであり、パーソナルコンピュータに装着するとパーソナルコンピュータとの間でデータ転送が行われる電池内蔵型携帯無線端末において、前記電池内蔵型無線端末がパーソナルコンピュータに装着されデータ通信が行われるときにはユーザからの指令によって前記電池内蔵型無線端末が前記パーソナルコンピュータに備えられた電源によって駆動されるかまたは内蔵電池によって駆動されるかを選択できる電池内蔵型携帯無線端末を提供する。

【0005】

【発明の実施の形態】 以下、本発明の実施の形態について図面を用いて説明する。図1は本発明の電池内蔵型携帯無線端末のブロック図であり、図2は本発明の電池内蔵型携帯無線端末の動作を説明した図である。図1において、1はパーソナルコンピュータ、2は電池内蔵型携帯無線端末、3は内蔵電池、4はACコードである。図1で示されるようにパーソナルコンピュータ1のアダプタに電池内蔵型携帯無線端末2を装着すると、電池内蔵型携帯無線端末2はこの端末に内蔵されている内蔵電池3またはパーソナルコンピュータ1からのAC電源からの電源供給によってデータ通信が行われる。

【0006】 図1および図2にもとづいて動作説明を行う。

【0007】 まづ、パーソナルコンピュータ1に電池内蔵型携帯無線端末2が装着されているかどうかを判定し(S1)、装着されていないときには電池内蔵型携帯無線端末2は内蔵されている内蔵電池3によって駆動される(S5)。そして、電池内蔵型携帯無線端末2が装着されているときにはパーソナルコンピュータ1から電源が供給できるかどうかを判定し(S2)、パーソナルコンピュータ1から電源供給が行われているときには電池内蔵型携帯無線端末2に内蔵されている内蔵電池3からパーソナルコンピュータ1のAC電源4に切り替える

(S3)。その後は電池内蔵型携帯無線端末2はパーソナルコンピュータ1のAC電源4からの電源供給によって駆動される。同時に、電池内蔵型携帯無線端末2に内蔵されている内蔵電池3はパーソナルコンピュータ1のAC電源4によって充電される。

【0008】 また、必要に応じてはパーソナルコンピュータ1に装着する前にはスイッチによって、装着後にはコマンド指令によって任意に電池内蔵型携帯無線端末2は内蔵電池3またはパーソナルコンピュータ1のAC電源4によって駆動するかどうかを切り替えることができる。

【0009】

【発明の効果】 以上のとおり、本発明はパーソナルコンピュータに装着された電池内蔵型携帯無線端末がパーソナルコンピュータからのAC電源または内蔵電池によって駆動するかどうかを選択できるし、さらに同時に内蔵電池をパーソナルコンピュータからのAC電源によって充電することができるので、内蔵電池の寿命を延ばすことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の電池内蔵型携帯無線端末のブロック図である。

【図2】 本発明の電池内蔵型携帯無線端末の動作を説明した図である。

【符号の説明】

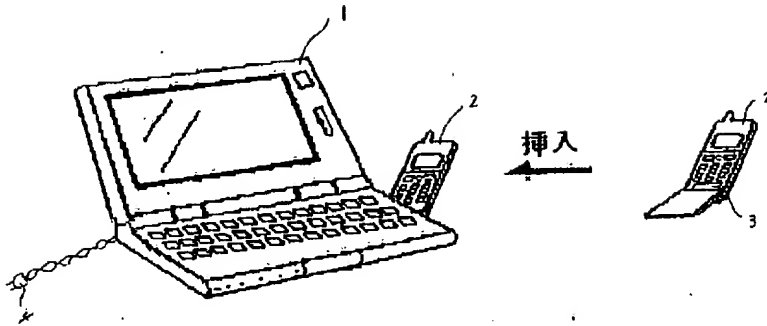
1 パーソナルコンピュータ

3

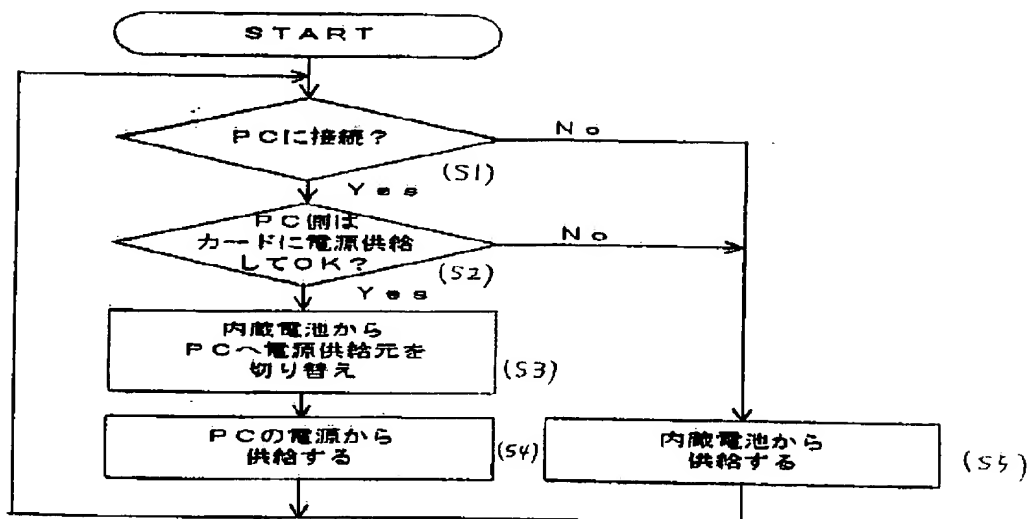
2 電池内蔵型携帯無線端末
3 内蔵電池

4 AC電源コード

【図 1】



【図 2】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. 6

識別記号

F I

H 0 4 M 1/00
1/02

G 0 6 F 1/00
H 0 4 B 7/26

3 3 0 F
V